

豊かで住みやすい大山町へ

身近な問題を

真剣に議論



意見白熱の高麗会場

行政に寄せられた要望と回答

要望

町長

大山開山 1300 年祭の総括と今後は。

県西部全体では 25 万人余のイベント集客数で、前年比 122% の入込客となった。今後はこの遺産を継承し、さらなる磨き上げとより一層の官民連携を深めていく。

地域自主組織の活動のチェックと今後は。

集落支援員からの実績報告などの聞き取りを行っている。今後は町の事業受託などにより、自主財源の確保を依頼していく。

遊休施設・土地などの活用は。

ホームページなどで募っているが、少ない。

公共施設の男性用トイレにもおむつ交換台を。

多目的トイレに今後順次整備していく。

防災士の資格取得に助成できないか。

今後3年間、県が補助し、県下 180 人を養成する。本町でも推進していく。

昼休憩の時間帯での役場窓口で放置された事例があったが、対応は。

職員一同で声かけを徹底していく。

地区を限定しない奨学金の創設を。

財政なども考慮しながら検討していく。

今年2回目の議員と語る会を、11月13日から21日までの期間に、各地区2カ所の計6会場で開催しました。幅広い世代の方に参加いただき、テーマは設けず自由討議で行い、各集落での直面している問題や大山町の将来など有意義な意見交換ができました。

参加者 53 人 (前回 4 月 36 人)

中山地区 15 人 (前回 12 人)

名和地区 16 人 (前回 8 人)

大山地区 22 人 (前回 16 人)

【アンケート調査】

語る会の評価は？

